これからの“地方の交通”をつくる

モビリティ人材の育成方法と効果

“共創”で
“交通空白”を
なんとかするには
プロデュース＆ネゴ人材
が必要です

NPO法人いわて地域づくり支援センター

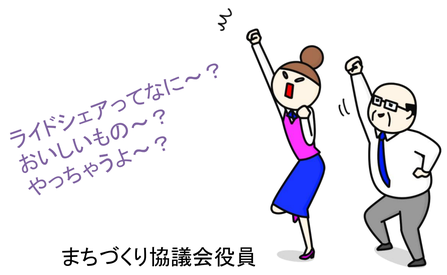
1．取り組みの背景と思い

◆市町村職員の疲弊

バス撤退、タクシーは廃業
お店も病院も遠くに…
だれもがクルマを手放せず
なのに「交通空白」と言われ…

◆地域運営力の高まり

自分たちでできることをやりたい。



交通の多様化 ✖ 担い手の多様化
＝
再構築
リ・デザイン

でも、足りない！

多様化が進むほど、リ・デザインを
プロデュース人材が必要となってきた。

2．リ・デザイン能力とスキルの提案

◆習得すべき能力とスキルを整理し、

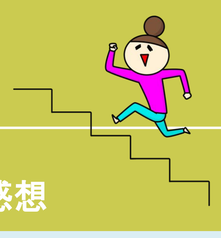
◆それらを習得できる研修プログラムを設計し、

◆今年度、2セット実施中。
夏講座：7～9月
秋講座：10～1月

必要な能力	基本スキル/プロセス
①情報力	情報収集・マップ化
	公共交通乗車（実施）
②企画力	関係者聞き取り（実施）
③調整力	市民・利用者聞き取り
	提案・協議（実施）
④プロセス力	新交通導入支援

講師4名

《交通の専門家》✖《研修のプロ》
森山昌幸氏
福本雅之氏
若菜千穂
遠藤智栄氏



申し込み状況

秋講座
絶賛募集中

講座	オンライン講義	ワーク研修	実地研修
夏講座	37 名	7 名	6 名
秋講座	29 名	15 名	13 名
合 計	66 名	22 名	19 名

参加者属性

属 性	人数	割合
市町村・県職員	45	68%
住民・自治組織	8	12%
中間支援者・コンサル	8	12%
交通事業者	2	3%
その他	3	5%

3．講座の内容

オンライン講義（150分×２回）

学びの定着のために、講義に加えて参加型の進行を行った。

参加型①ブレイクアウトルームを活用して参加者同士で思いの共有を行った。
（チェックイン）
1）地域の交通の現状と課題
2）講座への参加の動機
（チェックアウト）
1）気づいたこと、感じたこと、学んだこと

参加型②ひとつの講義終了ごとに感想や質問を書き込む時間を設けた。

参加型③最後に、これまでの質問や意見をとりまとめ、全体ディスカッションの時間を設けた。

(1)オンライン講義

	9:30	10:00	10:15	11:00	11:45	12:00
1回目	30分	15分	45分	45分	15分	
	開会式 オリエンテーション（講師紹介 カリキュラム説明）	チェックイン	講義１ 若菜 千穂	講義２ 福本 雅之	チェックアウト	

	9:30	9:45	10:45	11:30	11:45	12:00
2回目	60分	45分	15分	15分		
	チェックイン	講義３ 森山 昌幸	講義４ ディスカッション 講師ら４名による質疑応答	チェックアウト	次回以降の説明	

ワーク研修（1泊2日、夏：仙台、秋：盛岡）

多様な主体が“共創”するために必要なスキルを体験することを目的として、「ロールプレイング研修」を実施した。その後、学びの成果として自らの「プランニングシート」の作成を行った。

	13:00	15:00	17:00
1日目	105分	105分	
	イン	自己紹介 課題感の明確化と共有	ケーススタディとロールプレイング Ⅰ	アウト

	9:00	12:00	13:00	16:00	17:00
2日目	165分		180分		
	イン	ケーススタディとロールプレイング Ⅱ	お昼	振り返りとディスカッション	次回以降の説明

ロールプレイング研修
↓
リ・デザインスキル評価シートの作成
↓
プランニングシートの作成

「公共交通の見直しに向けた1回目の意見交換会」という設定のロープレ

実地研修（1泊2日、夏：涌谷町、秋天童市）

多様な主体が“共創”するために必要なスキルを体験することを目的として、「ロールプレイング研修」を実施した。その後、学びの成果として自らの「プランニングシート」の作成を行った。

	13:00	14:00	17:00
1日目	60分	165分	
	オリエンテーリング	乗車やヒアリング等 現場体験	アウト

	9:00	12:00	13:00	15:30	17:00
2日目	165分		150分	45分	
	イン リ・デザイン検討	お昼	提案報告会	講評	

交通情報から行程を決める
↓
JR・バス乗車
↓
仮説を立てる・質問を考える
↓
事業者ヒアリング
↓
提案
↓
自らのプランニングシートの更新

自分たちで選んだバスに乗る。
チェックリストに記入しながら、気になったところは撮影

自分たちで考えた質問をバス会社にぶつける。

撮った写真なども活用しながら、提案をまとめる。

現状と課題、ヒアリング結果、提案を3枚の模造紙にまとめ発表する。

オンライン講座の感想

■オンライン講義での参加者からの感想と質問

- 現在、まさにニーズから始めて経営が立ち行かなくなっている公共交通の経営改善に関わっています。考え方をインプットし直す参考にしたいと思いました。
- アンケート調査などニーズ把握に注力していたので、事業者側へのヒアリングの重要性を改めて感じました。
- 公共交通を考える際、量の部分に目が行きがちだった。質も考慮した上で、行ける・行けない表の作成は今後の地域の公共交通を考える上でとても参考になりました。
- 限られた台数・人員で様々な形態を組み合わせたハイブリットな構築をしていく重要性が分かった。
- 現状の維持でなくリ・デザインする必要性が大事と認識した。
- 絆創膏貼って終わりの対処療法、モグラ叩きに陥りがちは本当にその通りで、気を付けたいと思います。

■全体ディスカッションのテーマ

- まちのビジョン と 交通のコンセプト（望ましい交通の姿）
- 交通のコンセプトの時間軸 （短期1～5年、中期5～10年、長期10年以上先）
- 人 （誰がやるか、誰とやるか ）

■終了後のアンケート

- 3人組の話合いの場、すぐの質問・感想等の書込み、おさらいも含めて、しっかりと進行してくださってとても良かったです。
- オンライン講座は参加しやすいので、より活用した方がいい。
- 全国で同じような課題に立ち向かっている同志がいると知れて心強いです。参加者間の会話時間が短かった。
- 今後も同様の講座があれば参加したい。県内での開催であれば対面の研修も参加してみたい。

ロールプレイング研修

■ロールプレイングとは
「役割（role）」と「演じる（play）」を組み合わせた言葉。現場や実際に近い疑似場面を想定し、その中で自分の役割を演じることで、実践力を身につけるという学習方法。

■事前準備
詳細な役割設定 …町担当職員、バス営業所所長、まちづくりNPO、病院の事務長、商工会会長、農家、移住者、交通有識者
丁寧な場面設定 …2年前にタクシーが廃業、バス路線が5路線あるが利用者は少なく、町の負担が増大している。バス路線と同じところを病院の送迎バスが走っている。

場面設定資料

■ロールプレイング研修後の学び

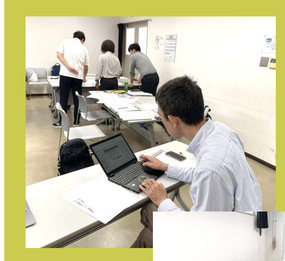
- 手遅れになる前に関係者に相談することが大切。平時からコミュニケーションが重要。本音がしゃべれることが大切。それぞれの立場でできることを考えてもらうのが大事。関係性を作るうえでも。中立的な立場の進行役は重要。自分中心にならないこと。みんなでよくしていこうという意識の共有が大切。

リ・デザインスキル評価シート

能力	基本スキル	スキルのポイント	○	△	×
情報力	情報収集	路線や運行時刻、利用状況や収支状況のほか、どのような意図で運行されているか、どのような人が利用しているかなどの情報が自分なりに整理している。	2	3	2
	公共交通乗車体験	JRやバスなどに乗車し、現状や問題点を肌で感じている。説得力を持って説明できる。		4	3
	関係者からの聞き取り	交通事業者だけでなく、福祉や教育、利用者やまちづくり団体や個人等多様な人材から話を聞き、彼らの意図を知っている。		4	2
企画力		地域内の交通資源を知るとともに他地域の交通対策の事例も学び、まちのビジョンを踏まえた交通コンセプトの選択肢を複数提示できる。		5	2
調整力		多様な関係主体との信頼関係に根差して、交通コンセプト案について検討できる。	2	4	1
プロセス力		突発的に発生した短期的事案やまちのビジョンに根差した中長期的目標など、その時の課題や目的に応じて一連のプロセスを組み立てることができる。	2	3	2

■リ・デザインスキルの自己評価

- 情報力…資料を自分に落とし込めていない。バス、乗合タクシーは乗ったことがない。乗ったことはあっても時間帯が限られている。
- 企画力…複数案は提示できていない。
- 調整力…会議では会うが、交通事業者と個別に会ったことはない。信頼関係は分からない。
- プロセス力…ゴールは見えても段取りを考えるのは苦手。事例やロープレを通して、具体的な順番を組み立てられそう。



いそげ いそげ

あせあせ

参加者が提案をまとめている間に、講師陣も参加者の調査の様子を見た上で、指摘事項を急いで整理し、全体で振り返る。

最後は、すべての研修をふりかえり、改めて学んだ成果を共有します。
ワーク研修で作成した自分のプランニングシートを更新し、これから具体的に取り組むべきことを自ら再認識します。

多くの学び、
具体的なやるべきこと
そして仲間を
得ました。

さらに、秋講座を経て研修内容を完成させ、次年度以降も人材育成を継続していきます→→